

令和4年度 学校評価総括評価表

徳島県立穴吹高等学校

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標による達成度 ※( )内は昨年度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策
1 確かな学力の育成	1-1 自らの将来を具体的に思い描き、主体的に学習することを通して、基礎学力の伸長と進路実現を図る。	1① 基礎学力養成のため校内で漢字テストおよび英単語テストを実施し、年間平均85点以上の優秀者の割合を、全学年、漢字テスト、英単語テストともに30%以上を目指す。	1① 実施日に向けて国語科・英語科を中心に事前対策を行い、各学年・クラスでも学習を奨励し、校内表彰に加えて学年表彰を設けることで漢字および英単語の習得を督励する。	年間平均85点以上の優秀者の割合 漢字テスト 〔1学年〕34.7%(43.3%) 〔2学年〕50.0%(37.0%) 〔3学年〕43.4%(56.1%) 英単語テスト 〔1学年〕21.7%(23.3%) 〔2学年〕34.6%(11.1%) 〔3学年〕42.2%(40.3%)	B	定期考査期間中の家庭学習時間が目標の2時間を上回っており素晴らしい。これからも、家庭において自ら学習する習慣が定着することを期待する。 他の教員の授業を見学する仕組みは、教員のモチベーション維持や授業の質の向上が期待できる。	1年生で英語学習を苦手とする生徒が多い。より一層反復学習に力を入れる必要がある。また、進学・就職を問わず、今後自ら学ぶ姿勢が必要であることを機会あるごとに指摘し、基礎学力の定着を促す。
		1② 1年生で国語・数学・英語の基礎教科に関して学び直しを行い、認定テストの最上級の合格率60%以上を目指す。	1② 授業および課外学習での学習時間を確保するとともに、定期考査の出題範囲に盛り込むことにより学習意欲の高揚と持続を図る。	1年生認定テスト最上級合格率 国語 93.9% (96.4%) 数学 87.8% (89.3%) 英語 63.3% (57.1%)	A	生徒の学習意欲を高めるために創意工夫をこらした授業を期待する。 漢字テストや英単語テストの成績を年間平均で評価する	引き続き、国語・数学・英語の授業で学び直し教材やテスト対策の事前指導を実施し、基礎学力の定着を目指す。
		1③ 学力の定着を図るため家庭学習を促し、特に定期考査期間中、各学年において一人あたりの1日平均学習時間2時間以上を目指す。	1③ 考査期間を含む1週間の家庭学習時間調査を実施し、生活スタイルの見直しや適切な学習内容について担任が助言する。	一人あたりの1日平均学習時間 〔1学年〕2.1時間(2.5時間) 〔2学年〕2.0時間(2.7時間) 〔3学年〕2.8時間(3.0時間)	A	家庭学習時間調査を定期考査ごとにより、直近のテストの成績からどれだけ伸びたのかを図る方法もある。 今後もより一層学力向上への取組を期待している。	家庭学習時間調査を定期考査ごとにより実施し、学習状況を確認するとともに家庭学習習慣の定着につなげる。
		1④ 生徒対象の進路ガイダンス、進路模擬授業及び保護者対象の進路説明会等の行事を年間5回以上実施する。	1④ 各行事の内容を精選し、生徒の興味・関心・適性等に沿ったものにする。また、保護者に積極的な参加、参観を勧めるために進路説明会の内容を工夫する。	生徒対象進路ガイダンス5回、進路模擬授業及び保護者対象進路説明会等3回 (5/15, 11/13, 3/20) 実施	A	より主体的な進路決定に臨めるよう、体験的な学びの場を設定したり、情報量を増やしたりすることで、能動的なキャリア学習を重ねさせる。	
1-2 主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるよう授業の工夫をする。	2① 他の教員の授業を1・2学期、各2名以上の授業を見学する。授業見学率100%を目指す。	2① 1・2学期に各1か月すべての授業を公開し、他の教員の授業を参観し、点検することにより、自らの授業力の向上やスキルアップを図る。また、授業者も参観シートで指摘を受けることにより授業実践力の向上を図る。	教員2名以上の授業見学率 〔1学期〕100% (100%) 〔2学期〕100% (100%) 年間全体 100% (100%)	A	授業実践力の向上を図るために、同教科・他教科の授業参観を促す。また、授業者と参観者による意見交換を行い、互いの授業改善につなげる。		
	2② 生徒への授業アンケートで「授業にまじめに、また積極的に取り組んでいますか」の問いに対し「大変当てはまる」「当てはまる」と回答する生徒の割合が全学年80%以上を目指す。	2② 2学期末に生徒へ授業についてのアンケートをとり、結果を教員で共有することにより、生徒が主体的・積極的に取り組める授業改善に取り組む。	「大変当てはまる」「当てはまる」と回答した生徒の割合 〔1学年〕92.9% (78.6%) 〔2学年〕77.8% (83.6%) 〔3学年〕87.0% (83.6%) 生徒全体 87.0% (81.5%)	B	教科会の中で生徒のアンケート結果について検討したり、ICT活用について研修したりするなど、生徒が意欲的に取り組むことができるよう教材研究に努める。		
	2③ 教員への授業アンケートで「生徒を中心とした授業の展開ができたか」の問いに対し「そう思う」「だいたいそう思う」と回答する教員の割合が80%以上を目指す。	2③ 2学期末に教員へ授業についてのアンケートをとり、結果をもとに、各自、授業の振り返りを行い、今後の授業改善に努める。	「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した教員の割合 「そう思う」 22.7% (23.8%) 「だいたいそう思う」68.2% (71.4%) 計 90.9% (95.2%)	A	「そう思う」と回答する教員の数が増えるように相互授業参観を行い、生徒のアンケートの結果もふまえて教科会で生徒の実態に応じた授業展開について情報共有し、自らの授業改善に努める。		

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標による達成度 ※( )内は昨年度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策
2 基本的 生活 習慣 の 確 立	2-1 学校や社会のルールを守るとともに正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	1① 生徒のセルフチェックで「学校や社会のきまり・ルールを守ることができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各学年80%以上を目指す。	1① 計画的に校舎内外の巡視や服装・頭髪指導を行い、気になる生徒には声かけや指導を行う。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 〔1年生〕90.0%(87.1%) 〔2年生〕72.4%(86.5%) 〔3年生〕80.8%(94.3%)	B	学校や社会のルールを身につけさせる努力をしていることを高く評価する。穴吹高校が取り組んでいる「相手や場に応じた言葉遣いができる」ようになることは、現代の若者に共通する問題点である。	計画的な巡視や服装・頭髪指導により、学校や社会のルールを理解させる。また対話を通して生徒理解を進める。今後も生徒が自主的に正しい行動を選択できるよう学校全体で連携して指導にあたる。
		1② 生徒のセルフチェックで「うまくできないことを途中で諦めず、努力することができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各学年65%以上を目指す。	1② 朝のSHR前の10分間を朝の学習の時間とし、認知力向上トレーニング(コグトレ)を段階的に実施する。具体的には1年生では視覚的短期記憶・聴覚的短期記憶を高めるトレーニング、2年生では注意力や集中力、想像する力を高めるトレーニングを行い、3年生では進学・就職試験に向けた実践的な学習を行う。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 〔1年生〕64.0%(64.5%) 〔2年生〕48.3%(55.8%) 〔3年生〕73.1%(83.3%)	B	引き続き指導を続けるべきである。生徒会役員や野球部員が模範となって、雰囲気作りをしていくことが大切である。 人は第一印象で決まることが多い。見た目や挨拶、行動がいかに大事かということを子どもたちに伝えてほしい。	3年生を見ると2年生だった昨年度55.8%から73.1%に上昇している。生徒の成長を長期的に捉え、引き続き、学習や生活の土台となる注意力・集中力・想像する力を高める認知力向上トレーニング(コグトレ)に取り組む。
		1③ 生徒のセルフチェックで「相手や場に応じた言葉遣いができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各学年80%以上を目指す。	1③ 校内人権の日において、動画説明やグループワークを取り入れた、ソーシャルスキルトレーニングを実施する。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 〔1年生〕90.0%(71.0%) 〔2年生〕79.3%(84.5%) 〔3年生〕78.8%(90.7%)	B	一方、学校のルールがいきすぎた規範の押しつけにならないよう、学校や生徒、家庭とも連携して熟議・更新していく必要がある。	ソーシャルスキルを学習する機会を増やし、相手や場に応じた言葉遣いや振る舞いを身につけられるよう工夫する。職員室入室時や授業前後のあいさつ、各種届出書類提出時において身だしなみや言葉遣いを個別に指導する。
	2-2 学校生活を通して、自主的、実践的な態度を育てる。	2① 学校生活アンケートで「挨拶(会釈を含む)をしている」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。加えて、生徒会役員以外で自主的に挨拶運動に参加した人数が年間のべ50人以上を目指す。	2① 気持ちよく一日のスタートがきれいよう、生徒会役員がリーダーとなり、積極的に挨拶を行う挨拶運動を毎週月曜と金曜の朝に実施することで、全校生徒が挨拶や会釈を交わすことのできる習慣形成を図る。	「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合 91.7%(88.9%) 生徒会役員以外で自主的に挨拶運動に参加した生徒は、延べ15人とどまった。	B		生徒会役員や野球部員は、朝も日中もよく挨拶をする習慣がついている。この雰囲気を維持し、他の生徒もよい影響を受け、挨拶運動に積極的に参加するよう働きかける。
		2② 学校生活アンケートで「清掃活動に丁寧に取り組んでいる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	2② 学期ごとに清掃活動を頑張っているクラスまたは清掃分担場所を表彰する「びかびかコンテスト」を実施することで、学習環境を整える意識の高揚を図る。	「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合 93.9%(85.5%)	A		学期ごとに2カ所の清掃分担場所を表彰している。今後も生徒の頑張りを認め、環境美化意識向上につながる機会とする。
		2③ 保護者アンケートで「お子様は家庭でゴミの分別に気をつけていますか」の問いに対し、肯定的に回答する保護者の割合が80%以上を目指す。	2③ 毎月アースデーを設け、美化委員がゴミの分別を呼びかけ、分別したペットボトルキャップの回収を行う。ペットボトルキャップは家庭からの持ち込みも可としており、「クラス対抗エコキャップバトル」としてペットボトルキャップ回収量の最も多いクラスを表彰することにより、校内のみならず、家庭でもゴミ分別の意識高揚を図る。	「よく気をつけている」「だいたい気をつけている」と回答した保護者の割合 70.0%(88.9%)	B		昨年度に比べ、ペットボトルキャップ回収量は減少した。しかし校内ではゴミの分別が正しくできており、水筒を持参する生徒の姿も見かけられた。家庭での自主的な分別につながるよう指導する。

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標による達成度 ※( )内は昨年度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策
他者と協調・協働できる力の育成	3-1 自他の生命や人権を尊重する態度を養う。	1① 生徒のセルフチェックで「相手の気持ちを気づかった関わり方ができる」という問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	1① ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や実情に合わせた内容を取り扱う。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 〔1年生〕 92.0%(71.0%) 〔2年生〕 65.5%(78.8%) 〔3年生〕 78.8%(94.3%)	B	SNS等で簡単に自己表現ができる時代であるため、投稿した内容が誰かの人権を傷つけたり、差別発言につながらないようにするためにも、しっかりと人権教育に取り組んでいただきたい。	生徒の実態に合わせた人権問題学習に体験型学習を取り入れて実施し、実際の場を想定したソーシャルスキルトレーニングを行う機会を増やす。
		1② 学校生活アンケートで「困ったときに相談したり助けを求めたりできる先生や友人がいる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	1② アンケート調査や校内巡視を行い、いじめの早期発見につなげるとともに、いじめ防止に関するホームルーム活動や講演会を実施したり、教職員及びスクールカウンセラーによる相談体制を強化したりすることにより、学校が安心・安全の場となるように努める。	「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合 90.5%(63.9%)			
		1③ 避難訓練を年間3回、防災クラブの活動を年間7回行う。	1③ 生徒の防災意識を高め、発災時に適切な行動を取ることができるよう、避難訓練や防災クラブ活動を推進する。	避難訓練2回(3回) 防災クラブの活動7回(7回)実施	B	育に取り組んでいただきたい。また、「投票に行かない」と回答した生徒の理由を聞き取り、今後の指導に役立てるべきである。理由が具体的に分かれば、改善できると考える。子どもたちにとって相談先を複数持っていることは大切である。子どもたちが相談しやすくなるような工夫をPTAでも取り組んでいくべきである。	コロナ禍で防災クラブは地域と連携する行事は少なかった。来年度は積極的に地域とも連携する。
	3-2 生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図り、人権問題の解決に向けて取り組む力を育む。	2① 12月に実施する人権問題意識調査において、校内での人権学習にクラスが「活発に取り組めた」「どちらかと言えば活発に取り組めた」と回答する生徒の割合が85%以上を、人権問題解消に向けての意欲を持つと回答する割合が70%以上を目指す。	2① 人権ホームルームを年間5回行い、人権問題意識調査を年2回実施し、生徒の意識の変化を分析する。	「活発に取り組めた」「どちらかと言えば活発に取り組めた」と回答した生徒の割合 90.3%(89.1%) 人権問題解消に向けての意欲を持つと回答した生徒の割合 67.1%(68.1%)	B	でも取り組んでいくべきである。	生徒が活動主体となるような活動を担任が実践していることが目標達成につながっている。人権問題解消に向けての意欲をさらに高めていくためにも、自分を含めた身近な問題として考えられるような課題を設定する。
		2② 12月に実施する人権問題意識調査において、校内での人権学習に「まじめに取り組んだ」「どちらかと言えばまじめに取り組んだ」と回答する生徒の割合が85%以上を目指す。	2② ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や現代社会の実情に合わせた内容を実施することで、生徒の学習意欲を喚起する。	「まじめに取り組んだ」「どちらかと言えばまじめに取り組んだ」と回答した生徒の割合 94.6%(93.5%)			
	3-3 礼儀正しい態度を育成し、コミュニケーション能力を高める。	3① 部活動生集会を各学期に1回ずつ開催する。部活動顧問と担任や教科担当教員が部活動生について話をする機会を作る。	3① 部での活動全てが学校の活性化につながることを自覚させるために、部活動生集会を開催する。また部活動が生徒にとってよりよい成長の場となるよう部活動顧問、担任、教科担当教員が連携しつつ指導にあたる。	部活動生集会を学期に1回ずつ開催した。部活動顧問と担任や教科担当教員が部活動生について話をする機会があった。	A	A	部活動生が、学校生活全般を通して中心的な役割を果たせるようになっていく。今後も、生徒が主体的に学校生活を活性化できるように、部活動顧問と連携して指導を継続していく。
		3② 華の丘祭の成功に向け、クラス・委員会活動・部活動で協力して準備を行う。	3② 華の丘祭で、地域や保護者に学校教育活動について知らせる教育の発表の場となるよう準備を進める。	華の丘祭では、全クラスがバザーを行い、全ての生徒が準備や運営に関わった。また、文化・体育委員や部活動生が裏方でよく働いた。			A
	3-4 成人年齢の引き下げに伴い主権者としての自覚と実践力を養う。	4① 学校生活アンケートで「選挙権を得て以降の選挙に必ず投票へ行く」と回答する生徒が70%以上を目指す。	4① 学校全体の教育活動を通じて、生徒一人ひとりが政治や選挙への関心を高めることができるよう指導にあたる。	「必ず投票へ行く」と回答した生徒の割合 〔1学年〕 28.6% 〔2学年〕 17.9% 〔3学年〕 54.2% 生徒全体 36.4%	C		今年度は主権者教育の対象学年を2・3学年と限定していたが、来年度は全学年を対象とし、政治や選挙への関心を全体的に高められるよう努める。

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標による達成度 ※( )内は昨年度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策	
4 地域に開かれた信頼される学校づくり	4-1 ふるさとに誇りを持ち、協働して働く力の育成を図る。	1① 地域に貢献する取組を年間7回以上行う。	1① 積極的に地域と連携する活動に参加し、ふるさとへの愛着と、協働する喜びを得る。	エシカルクラブ、家庭クラブ、JRC、防災クラブなどが、地域と連携して10回以上活動した。活動を進める度に自ら参加したいという生徒が増えた。	A	学校からの紙媒体の通知や広報物は、紛失する可能性もあるので、できる限りデータ化していくべきである。多くの保護者はスマートフォンを使用しているので、メールであればより情報に接しやすいのではないかと考える。	地域とのつながりを大切にしつつ、本年度の活動を継続・拡大し、ふるさとに誇りを持ち、協働して働く力の育成を育む。	
	4-2 地域に信頼される学校を目指し、地域の方々と関わる機会をつくる。また、広報活動を積極的に行う。		2① 中学生体験入学の来校者数100名以上、オープンスクール参加者数40名以上を目指す。	2① 「かわら版」を年間2回発行し、学校案内とともに、地域住民や近隣中学校に配付する。ホームページで中学生体験入学や11月の「華の丘教育週間」について情報発信を行う。	中学生体験入学来校者数 76名(中止) 内訳) 中学生50名 引率教員15名 保護者11名 オープンスクール来校者数 50名(65名) 内訳) 中学生37名(45名) 引率教員5名(9名) 保護者8名(11名)	B	学校外部への広報活動については、中学校訪問だけでなく、防災クラブやエシカルクラブの活動のように積極的にローカルに出て行くべきである。防災クラブやエシカルクラブの生徒も楽しみながら地域貢献ができており、大変評価できる。これからも取組を発展させながら継続してほしい。	各部活動等に各学期に1度はホームページを更新するよう呼びかけ、穴吹高校ホームページの活性化を図る。また、高校説明会の資料をさらに改善し、本校の魅力を中学生に感じてもらえるようにする。
			2② 中学校訪問の回数をのべ30回以上を目指す。	2② 中学生の興味を惹けるよう、学校説明動画の充実を図り、魅力ある学校づくりが伝えられる学校説明を地域の中学校で行う。	中学校訪問回数 86回(76回) 内訳) 中学校進路説明会関連8回(10回) 部活動関連78回(66回)	A	引き続き積極的に広報活動を行い、中学生だけでなく地域の方々にも本校の魅力を感じてもらえるよう努める。	
			2③ 保護者アンケートにおいて「学校からの通知や広報物に目を通している」と答える保護者の割合を60%以上を目指す。	2③ 広報や通知等を郵送するだけでなく、学校ホームページに掲載することで情報発信を多く行い、保護者が目を通しやすいように図る。	「いつも目を通している」「まあまあ目を通している」と回答した保護者の割合 88.3%(51.9%)	A	学校からの通知や広報物を、紙媒体だけでなく学校ホームページや連絡メールを活用したことで、目を通している保護者の割合が大幅に増加しているので、今後も継続する。	
			2④ ピアノコンサートを年1回以上開催し、近隣中学校生徒や同窓会員にも公開する。	2④ ピアノコンサートを開催することで同窓会より寄贈された本校のスタインウェイピアノを周知すると共に、同窓会活動の活性化の一助とする。	コロナ禍で、在校生を対象としてピアノコンサートを11月に開催し、生徒にピアノの由来を周知する機会を持った。学校ホームページにコンサートについての記事を掲載し、新聞報道もされた。	A	学校からの通知や広報物を、紙媒体だけでなく学校ホームページや連絡メールを活用したことで、目を通している保護者の割合が大幅に増加しているので、今後も継続する。	
	4-3 働きやすい活力ある職場としての学校づくりを行う。		3① 時間外勤務が月45時間を超える教員をなくすよう努める。	3① 出退勤管理システムを活用し、職員自らが勤務時間を把握する。また、管理職及び職員間でのサポート体制を構築し、勤務の均等化を図りながら、対象男性教員の育児・看護・介護休業などの取得促進に努める。	時間外勤務が月45時間を超える教員 延べ37人(12月末現在 昨年度35人)	B	次年度も出退勤システムを活用し、時間外勤務の多い教員に対して適切な指導助言や業務の割振等を行う。	
			3② 年休等の取得日数、年間10日以上を目指す。	3② 長期休業中などは行事の精選をし、考査期間中などは研修をできるだけ入れないようにし、定時退勤や年休取得を呼びかける。また、長期休暇中に学校閉庁日を設け、夏休等の取得促進を図る。	年休取得日数年間10日以上 11人/23人(12月末現在)	B	次年度も学校閉庁日の設定や、行事、研修の精選を行い、年休取得の奨励、定時退庁の呼びかけを行う。	